

事務局だより

1. 会員動向

7月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
37	31	31	27	126名 (Eグループ会員：113名)

6月30日付退会者 白井保氏 (ベイサイド)

7月1日付入会 太地秀晴氏 (湘南)

2. 運営委員会報告

1) 個人情報保護法の改訂について (竹内委員)

- 個人情報保護法は2017年の改正でクラブや同窓会、自治会を含むあらゆる団体が対象となり、さらに2022年4月1日の改正で個人の権利と罰則が強化されました。これを受けて、じゃおクラブの「個人情報保護方針」と「個人情報保護規程」を作成するために、原案をもとに、運営委員会で議論しました。
- 議論では、事務手続き等を円滑に行えるようにすることや、じゃおクラブの活動への影響を最小限に抑えることが必要との意見が出されました。
- 現在、改訂を進めています。終わり次第、「個人情報保護方針」の改訂案を作成し、地域じゃおへの説明を経て、ホームページに掲載する予定です。同時に、じゃおクラブ内の個人情報取り扱いについてのガイドラインとして「個人情報保護規程」も作成する予定です。

今後のスケジュール

- ① 8月～9月の地域じゃお世話人会 (または定例会) で説明します。
- ② 9月の運営委員会で地域じゃおの意見集約結果を確認します。
- ③ 10月の実施を目指します。

2) 「会員だより」執筆予定者の順序について

運営委員会に執筆予定者の順序を決めるルールの変更が提案されました。もう一度、じゃおニュース編集関係者の意見を聞いた上で再検討することになりました。

3. 次回の運営委員会

日時：2022年9月25日 (日) 10:00～12:00 オンライン開催

議長：竹内委員、書記：永井委員

特別寄稿

連載中のじゃお県央、前田康行さんの特別寄稿。今回は、道中の2日目、愛知県瀬戸市の道の駅で車中泊してから、日本海側を走行し島根県の宍道湖畔にある道の駅にたどり着くまでの紀行文をお届けします。

不如帰道中記～その3

じゃお県央 元相模原市 前田 康行

車中泊2日目、道の駅も様々～ 2日目（2022年5月1日） 愛知県瀬戸市→島根県松江市

今日は母親の命日なので、起きてまず合掌。それから歯磨いて、朝食とって。そうそう、歯磨いたら、車中泊の私とほぼ同年齢と思いきおじさんが話しかけてきましてね、機械メーカーのサラリーマン時代には世界を飛び回って営業やってたけど、今や価格競争で東南アジア勢にも負けるようになってしまって、とか、高度経済成長時代はいい時代だったなあ、今の時代、若者は非正規雇用とかかわいそうだよなあとか、そんな話で盛り上がりました。そのおじさんは仙台在住で、四国を車で一周するんだそうです。やっばいるんだ、車旅の好きなおじさんが。他にも、たまたま通りかかった地元のおじさんが、なんでこんなにたくさん泊ってるのって聞いてきて、GWだからじゃないですかねえなんて寝たぼけた返事の私。旅先のこういうほのぼのとした触れ合いっていいですねえ。

さて、スマホの地図を見てたら、瀬戸市から西に向かうには、福井県敦賀市よりも京都府舞鶴市がよさそうだと思われたので、ナビに舞鶴市を入力し、6時半に出発。これがまた結構ハードな道。滋賀県の琵琶湖北岸から京都府北部、兵庫県北部を通るのですが、ほとんど山道。途中、対向車と離合もできないような部分があったり。ただ、車はほとんど通らず対向車に出会わなかったため往生することはなかったですね。それを過ぎると国道9号線。この後、ナビの指示はだいたいこの国道9号線が中心。日本海側を西に向かう最適なルートはこの国道のようです。この国道9号線もかなり整備されていて準高速道路といった感じ。ご多分に漏れず、みな70-80km/hぐらいで走ってます。渋滞に全く出くわさないで順調に西へ。ただ、混むところを避けるということか、ナビが時々、えっ、ほんまかいなというような道を指示します。でもその通りに進むと確かにスイスイ。で、しばらくするとまた国道9号線に戻るといふことの繰り返し。そのまま順調に進んで、なんと鳥取県も通過、速い速い。この国道、結構道の駅が多くて、見つけるたびに立ち寄ってトイレ休憩したり昼食をとったり。それでも相当距離を稼ぐことができました。

夕刻が近づいてきたので、さて今日はどこに泊まるかとスマホの地図を眺め、島根県松江市の宍道湖のほとりにある道の駅に決定。いつの間にか島根県まで来ました。松江市のさらに10kmほど西にある道の駅へ。途中、夕日が水面を染める実に美しい宍道湖に出会えました。湖畔の公園にカップルがいっぱいいて、寄り添ってその美しい宍道湖を眺めとりました。デートコースなんでしょうかね、うらやましかったっす。私の若い頃って、金がなくて車なんて買えなかったし、そもそももてなかったしなあ。あ、そうそう、この国道9号線、夕刻に西に向かって走ると、当然ですが真正面からもろに夕陽が。かなり視界が妨げられます、ご注意を。

たどり着いた道の駅「秋鹿（あいか）なぎさ公園」は、宍道湖のほとりにあり、湖岸が砂浜になっていて、穏やかな宍道湖を眺めながら散策するとなかなか気持ちがいい。おじさん、ん？お爺さん？一人でもほんわか～としてきます。この道の駅ではカヌー体験ができるそうで、岸辺にたくさんのカヌーが

引き上げられてました。カヌーかあ、楽しそうだなあ、でも爺さんには似合わんもんなあ、若い頃にやってみたかったなあ。それにしてもこの晩もやっぱり寒かったっす。ここでも震えながら根性で7時間ほど寝ました。翌朝、フロントガラスは夜露でびっしょり。寒いはずじゃ。霜じゃなかっただけましですけど。この道の駅で残念だったのはトイレの便器が全部和式だったこと。この道の駅、少し古いようです。田舎生まれ田舎育ちとはいえ、もはや洋式便器でないとなんて用を足せない私としては、翌朝の用足しはパス、別の道の駅で。結局この日は、朝6時半から午後6時半までほぼ12時間、走りに走って走行距離なんと500km！よー走りました。

【会員だより】

車をやめて自転車に！

湘南 柏瀬 安史

とうとう私も今年80歳、これを機に運転免許証を返納することとしました。3年前東池袋で発生した自動車暴走事故を初め、高齢ドライバーのブレーキとアクセルの踏み間違いが原因と思われる事故が続発しています。かく言う私も約10年前の車庫入れの際、ブレーキとアクセルの踏み間違いで事故を起こしてしまいました。幸い壁が強固なコンクリートだったため、実害は車の買い替えだけでした。運転技能には誰にも負けないと自負していましたが、それからはすっかり自信を喪失した感じでした。家族からもそろそろ免許を返納してはと云われましたが、これまで以上の慎重な運転を条件に、80歳になったら免許を返納するとの宣言で今まで運転を続けてきました。

最近、反射神経の鈍化や駐車の際のバック駐車、並列駐車、幅寄せなど何度も繰り返さないで定位置に収まらないなど、そろそろ返納かなと気づかされるのが度々ありました。そんなことから宣言通り、7月末の任意保険期限や8月末の車検期限を前にして、7月中旬に車を処分することにしました。

ちなみに運転免許期限は12月20日ですので、近々自主返納の手続きに行くこととしております。これからの移動手段としては、幸い自宅から最寄りの辻堂駅迄のバスは1時間に朝18本、日中でも8～10本あり、また藤沢駅や湘南台駅行きのバスもありますのでそれ程不便を感じないのではと思っています。家族での移動はタクシーを利用するとして、残るは「じゃお農園」やその他バスの便が良くない処への移動が私にとっての問題でした。

坂道の多い地域に住む私にとって手軽で快適なものとは考え、いま流行の電動アシスト自転車を利用することにしました。

最近、自転車が車道を危なっかしく走る姿をよく見かけるものですから、規則を確認したら、自転車は原則として車道通行とのことですが、高齢者は例外として歩行者優先の下で、歩道通行が認められるとのこと一安心です。

先日電動アシスト自転車を受取り、早速近所の霊園へ行き平坦な道、上り坂、下り坂などの各種条件でギア設定方法の練習を行い、じゃお農園まで行ってきました。

まだまだ慣れない自転車ですので初めは近隣を、それから少しずつ足を延ばすようにしようと思っています。

車では通過してしまうような処などでの新しい発見と出会いに胸をふくらませ、これからの自転車ライフによる沢山の感動を期待している自分に驚いています。

じゃおクラブに加入しました

県央 加藤 一雄

令和4年4月よりじゃおクラブ県央に加入しました。

定年退職をして10年以上が過ぎ、ただ年老いていくよりは少しでも元気でいたいと思い、自分でも参加できる活動はないものかと考えていました。海老名市内の施設を見て回ったりした時に、福社会館のじゃおクラブの掲示を見つけました。「じゃお」ってなんだろうともう少し詳しく読むと「おやじ」を逆さに読んだものだそうで、面白そうだと思います。自宅でホームページを見ると、その中の説明項目に「じゃおクラブには名刺交換の習慣がありません、それは前歴などに左右されず『明るく、楽しく』毎日を楽しみたいという思いからきています。」とあり、これが加入しようと思うきっかけになりました。

いままで県央地区の蕎麦打ち、ピンポン練習、丹沢湖バーベキューなどに参加しました。これからも自分の出来そうな活動に参加し、元気な「おやじ」でいたいと思っています。よろしくお願いします。

じゃお県央

7月定例そば打ち開催報告

今年5月に続いて2回目の定例そば打ちを7月18日に開催しました。

新型コロナの感染が第7波に突入したのか海老名市でも1日100名を超える感染がある中で開催すべきか、中止にするか判断に迷いましたが各々体調管理に注意してマスク着用・手洗い・換気を十分に行い開催しました。

打つそばは二八そばで300gを4セットと、うどん500gを3個のこね鉢で各々交代してこね、延ばし、切断して1.2kgのそばと500gのうどんを作りました。



参加者 9名(OB 1名、見学者 1名を含む)

今回は、OBの大森さんを先生として招き指導していただきました。また、見学者の方も手慣れた感じで粉をこね、楽しまれているように見えました。次回も参加を希望したいとのことですのでじゃおクラブ入会も期待したいと思います。

出来上がったそば、うどんは1テーブル3人で掛け薬味(ネギ・海苔・大根・とろろ芋・揚げカス等)を付けて完食しました。時節柄、言葉数こそ少なかったのですが皆さん出来栄えに満足している様子が見えました。

(県央 福山 信二 記・大場 幸雄 写真)

落語鑑賞会（第18回）

2022年6月26日、横浜にぎわい座に笑いが戻りました。「東海道神奈川宿寄席」主催の落語会、じゃおからは11名の参加でした。

「東海道神奈川宿寄席」は20年ほど前に発足、今回で25回目となるそうです。レギュラーの三遊亭兼好は地域の集会所での開催のころから出演、師匠が有名になるにつれ会場も大きくなり、今回は遂ににぎわい座演芸ホールでの開催となり、約200名の観客が入りました。

13時丁度の開演、めくりには「開口一番」と書かれている。高座にあがり開口一番、「三遊亭兼好の弟子「けろよん」で～す！」・・・、客席からなぜか失笑が漏れる。「何がおかしいのですか・・・」とまじめに問い掛ける間のとりかたが良かった、上手くなりそう。演目は「黄金の大黒」。

一席目は三遊亭兼好で、まずは本日ゲスト出演の春風亭柳雀の紹介から。「変わり種で37歳で入門、この5月に50歳で真打ち昇進したばかり。真打昇進披露興行が続いており、元気なのか疲れているのかつかみどころがない。落語家としてはこの年になると覚えられない、忘れやすいで苦勞をするが・・・」と客席を見まわし、「皆さん位の年齢になると覚えな



い方が幸せです」と言いながら「堀之内」に入る。神奈川寄席では兼好は二つ目時代からの馴染みで、観客にも長年のファンが多く和やかな雰囲気が始まりました。

二席目はゲストの春風亭柳雀。確かにぼーとした雰囲気や眠そうな話し方、演目は「青菜」。オチで鎌倉殿の13人でも描かれた「九郎判官義経」ができました。中入り後の三席目は同じく柳雀、着物の替えの準備をしておらず一席目と同じ着物で登場、演目は「皿屋敷」。幽霊役の興行ですっかり有名になってしまったお菊さん、お菊オンステージでは助っ人としてマイケルジャクソンが登場、ムーンウォークを座布団の上で実演。「足がないからわからない」がおもしろかった。

最後の四席目は、兼好の「やかんなめ」。商家の奥方が出先で癩に見舞われるが、奥方の癩に効く特効薬は「やかんをなめる」こと。出先で折悪しく「やかん」がない、通りかかった侍の頭がつるつるでやかんにそっくり。その頭をなめさせてもらおうというもの。私の頭も似たようなもので、複雑・・・。

客席は1人おきの空席確保が解除され、全席自由席。木戸賃はベイサイド特別価格2200円で、師匠2人の4席に加え、前座の出来もよく1席相当で計5席を鑑賞できました。

（ベイサイド 諏訪 記・写真）

7月6日はサラダ記念日ならぬ「ワインの日」



約2年半ぶりにベイサイド・ワインの会が開催されました。今回のテーマは「日本ワインを訪ねて」です。因みに「日本ワイン」とは、国産のブドウのみを原料とし、国内で製造された果実酒のことを言います。又日本ワインで「GI」登録（地理的表示）されたものに①山梨県ワイン②北海道ワイン③山形県ワイン④長野県ワイン⑤大阪府ワインがあり、夫々統一ロゴが決まっています。

さて、今回のワインの会で供されたのは、

1) たこシャン

産地 大阪府 収穫年 2020年 品種 デラウエア 蔵元 カタシモワイナリー コンセプトは「たこ焼きと合わせるスパークリングワイン」。シャンパーニュと同様の瓶内二次発酵で作られています。2019年G20大阪サミットで採用。勿論大粒たこ焼き付きです。

2) 京都丹波セミヨン&ソーヴニヨンブラン 2020

産地 京都府京丹波町 収穫年 2020年 品種 セミヨン&ソービニヨンブラン 蔵元 丹波ワイン コンセプトは「和食に合うワイン」完熟したブドウを手摘みで収穫。特に白身魚と相性よし

3) スゴンヴァン アラミシュマン 2020

産地 北海道 収穫年 2020年 品種 未公表 蔵元 平川ワイナリー
無補糖、ノンフィルター、軽さと質を追求したワイン

4) あけの

産地 山梨県 収穫年 2020年 品種 メルロー、カベルネ・ソーヴィニオン、カベルネ・ブラン、プティ・ヴェルド 蔵元 グレイスワイン

国際コンクールでの受賞歴も多い、日本を代表するワイナリー。日照時間日本一、標高700mの明野町の自社畑のブドウを使用。フレンチオークを使って熟成し、清澄や濾過をせず瓶詰め

2) 3) 4) の白、赤、赤のワインには北海道マスカルポーネ、オーガニックチーズ ホロシリが供されました。どのワインにどのチーズが合うのかは人それぞれでしょう。私はじっくり味わいましたが、どの組み合わせも good でした。久しぶりに参加11名と講師の辻ソムリエとのワインがテーマの有意義で、楽しい2時間でした。次回は秋に開催予定です。

(ベイサイド 真島 記・諏訪 写真)

収穫できなかった枝豆～大人の遊び場～

「大人の遊び場」は町田市本町田へ移転して初めての夏を迎えました。農園の整備から始まり、様々な作物を育ててきましたが、順調なことばかりではありません。

7月21日、当初、この日は枝豆を収穫する予定でした。しかし、農園に着いて一同が目にしたものは、大きく茂った枝豆の葉ばかりでした。葉が青々と元気に育った一方、実の入っている鞘は全くありません。前から、実の成長が遅いとは感じていたものの、花が咲いていたので次回は収穫できるだろうとの淡い期待を抱いていました。しかし、残念なことに、期待は見事に裏切られ、小指の先ほどの身が入っていない鞘があるばかり。どこを探してもまともな枝豆は見つかりません。本町田へ移転して初めての作物づくりでもあり、農地の状態や現地の気象もよくわからない中で起きた出来事でした。仕方なく今年の枝豆は、すべて廃棄しました。

一方、作業が収穫のタイミングに追いつかない問題はあるものの、キュウリやミニトマトは元気に成長しています。この日はミニトマトと、成長し過ぎたキュウリなどを収穫し、剪定、摘芯、誘引を行いました。さらには、さつま芋のツル上げ、カボチャのツルを整え、ダイコンとカブの植え付けに向けた準備を行いました。戻り梅雨が去った後は想像以上に日差しが強く、休憩をとりながら、熱中症に注意しての作業でした。

参加者の手荷物を置く場所がなかったので、倉庫の壁に栈を取り付けて、荷物かけを作りました。これで、次回から個人の手荷物が整理しやすくなります。今後、椎茸の柵木に直射日光が当たるのを避けるために日よけを作る予定とも聞きました。整備を担当し、いつも器用に工作をしてもらえることに感謝です。

6月に再開した野外料理は、一回目のカレー、二回目のハヤシライスに続き、この日は親子丼でした。野外メニューの簡単レシピでしたが、メンバーには好評で疲労回復に役立ったようです。比較的簡単に作ることができ、早く食べることができるので、当分は丼系のメニューが続きそうです。「次回は麻婆丼にしようか」などの声も出ています。



今の「大人の遊び場」には日差しを避ける場所がなく、真夏の作業は過酷です。食事でも降り注ぐ陽光の中でとることになりました。これからは、タープを張るなど日差しを避ける工夫が必要ですね。

(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)